

ノリ養殖環境速報 KH-30-9 (播磨灘) 平成31年1月24日 発行

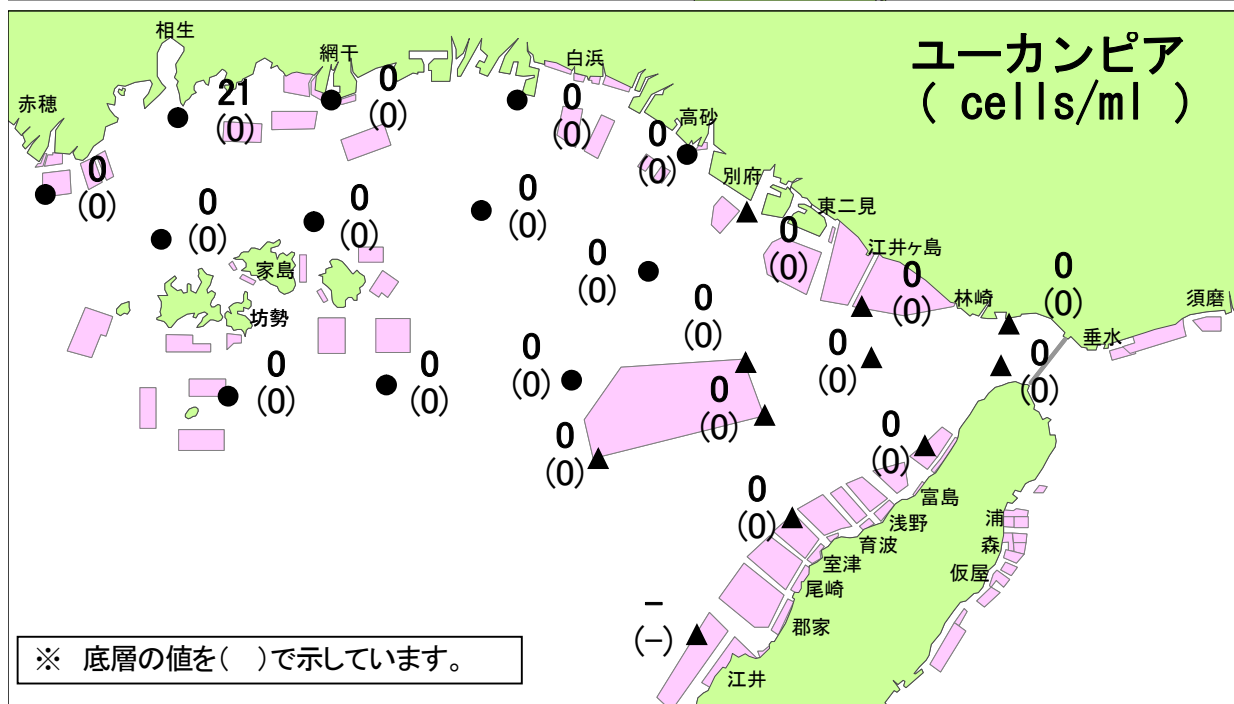
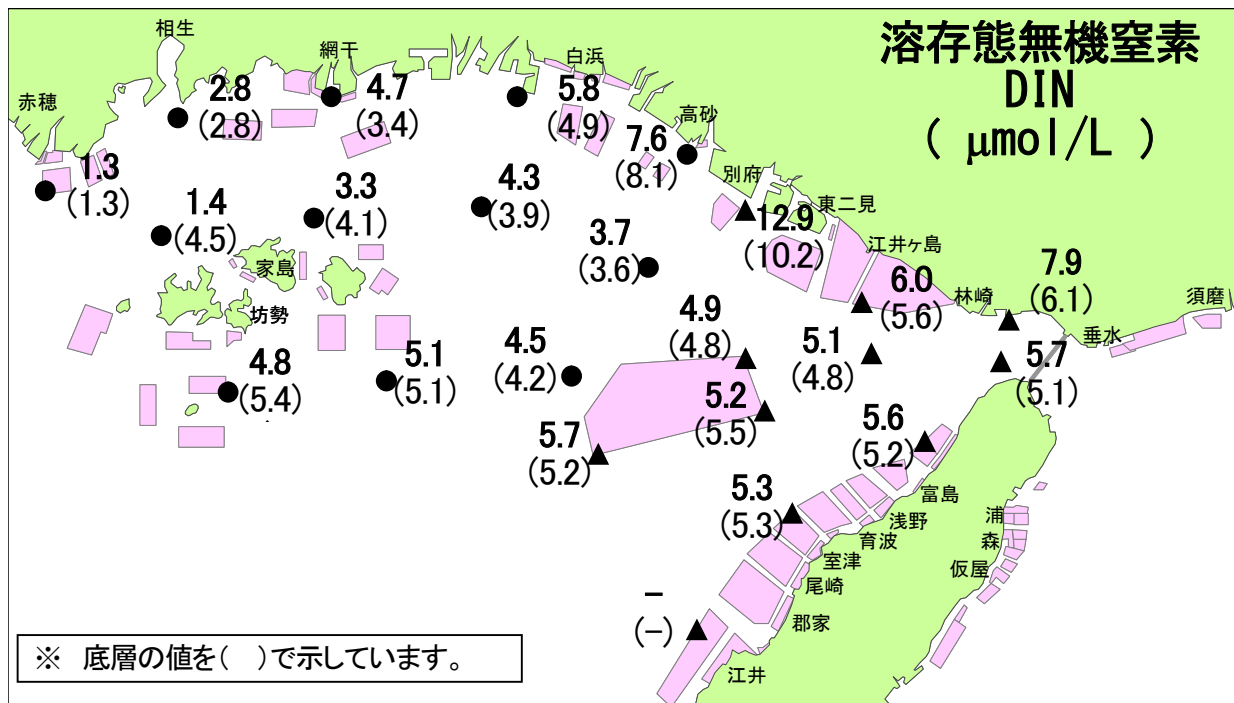
調査年月日：平成31年1月23日

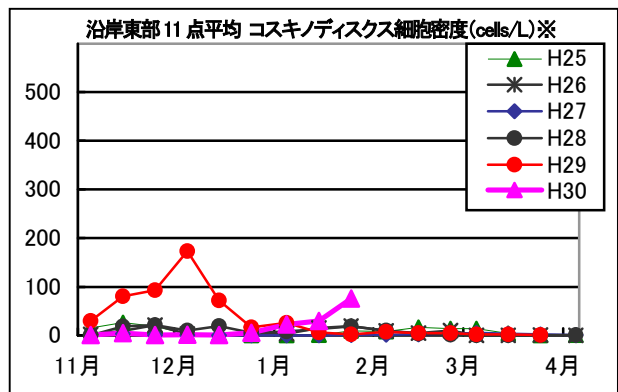
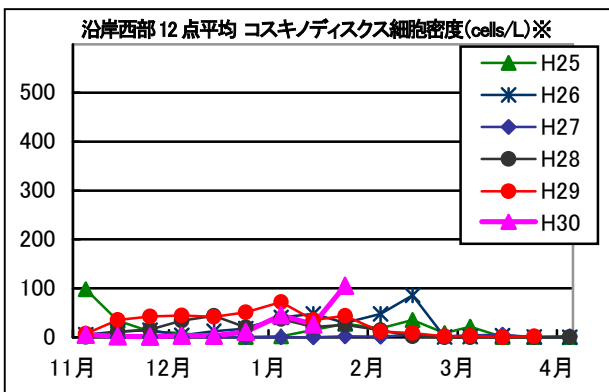
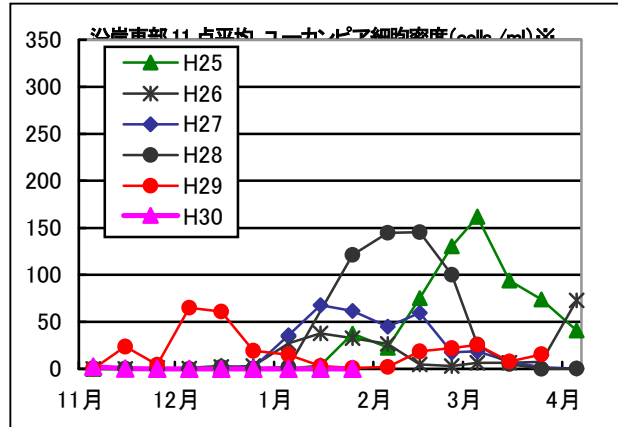
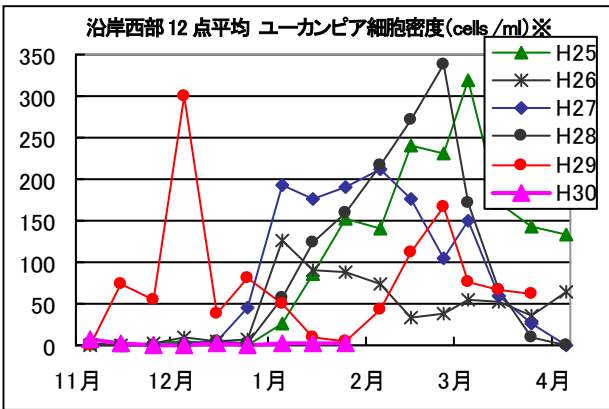
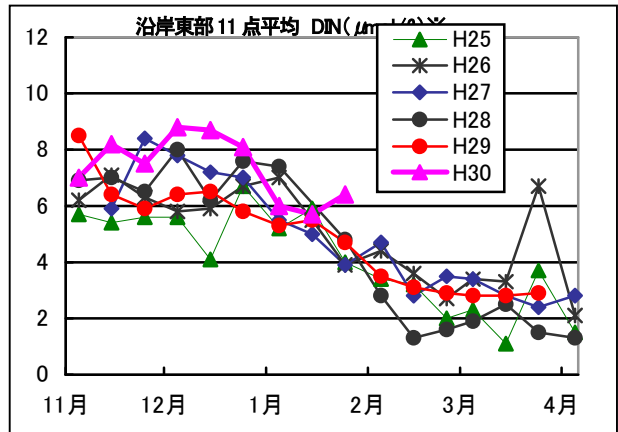
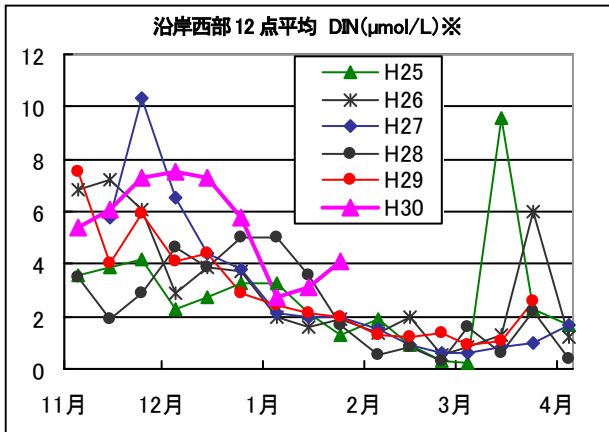
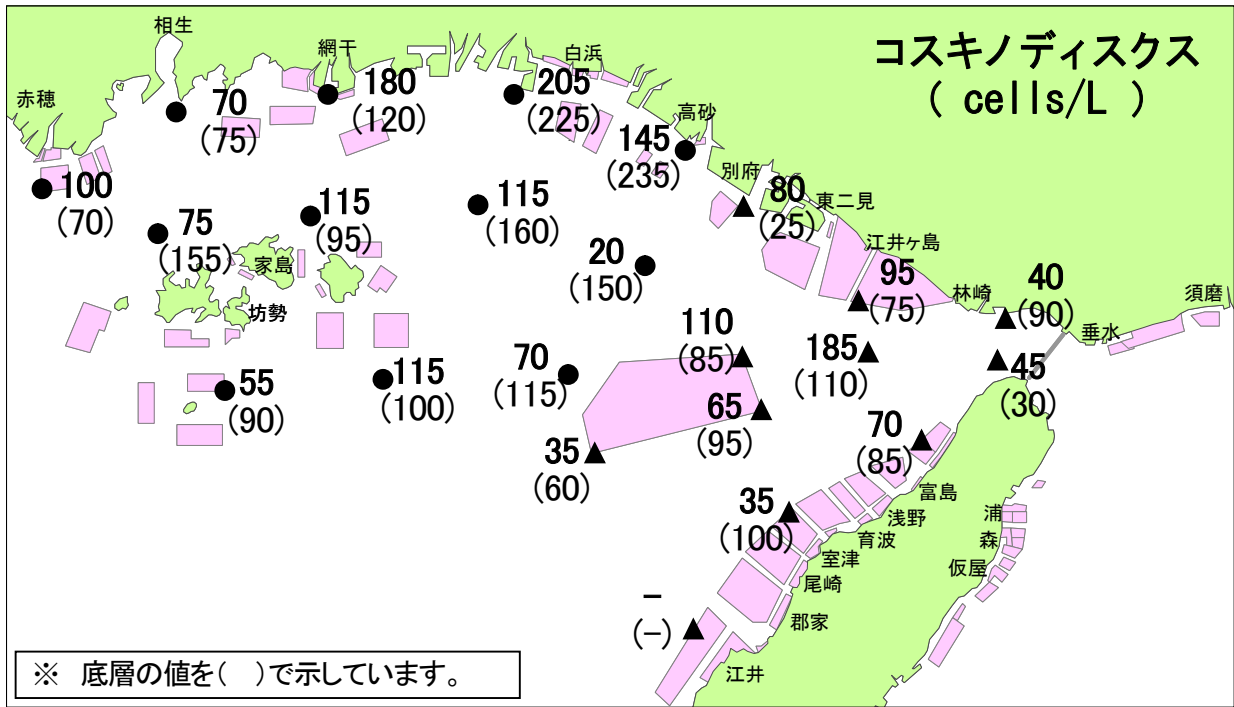
〔調査箇所は地図上に▲(東部)および●(西部)印で表示しています。〕

概況 播磨灘(調査海域)のDIN濃度は、概ね8 $\mu\text{mol/L}$ 以下で推移しています。

大型珪藻のコスキノディスクスワイレーは全域で確認されています。ユーカンピアは北西部沿岸の一部の海域でわずかに確認される程度です。

水温は、白浜以西では9.5~11.4 $^{\circ}\text{C}$ 、家島諸島周辺では9.8~11.6 $^{\circ}\text{C}$ 、江井ヶ島・高砂周辺で10.9~11.2 $^{\circ}\text{C}$ 、明石海峡付近並びに西浦では11.6~12.1 $^{\circ}\text{C}$ 、鹿ノ瀬周辺では11.3~11.6 $^{\circ}\text{C}$ でした。

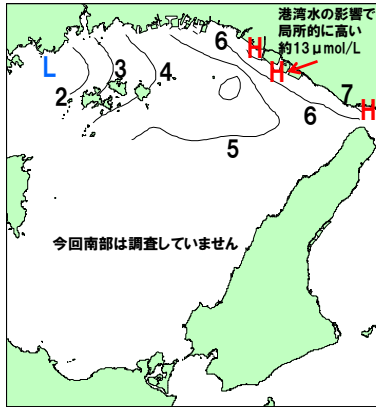




※1: 数値はすべて表層の値です。2: 調査地点は、沿岸東部 11 点は▲、沿岸西部 12 点は●で表示しています。

平成31年1月23日の水平分布状況(表層、実測値)

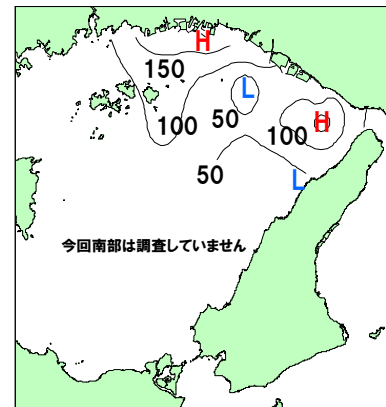
溶存態無機窒素濃度(DIN, $\mu\text{mol/L}$)



ユーカンピア(cells/ml)



コスキノディスクス(cells/L)



* Hは濃度又は密度が高く、Lは低いことを示しています

播磨灘における今後の栄養塩等に関する動向見込み

表層のDIN濃度は概ね $8\mu\text{mol/L}$ 以下でした。北部沿岸域表層のDIN濃度はやや回復していますが、相生以西の沿岸域は $3\mu\text{mol/L}$ 以下となっています。全般に小型珪藻類の発生量は減少していますが、大型珪藻のコスキノディスクスワイレシーは増加しています。今後も穏やかな天候が続くとコスキノディスクスワイレシーが増える可能性はありますが、栄養塩濃度に大きな影響を与えるような大量発生の可能性は低いと考えられます。ユーカンピアは北西部沿岸の一部の海域でごくわずかに確認される程度でした。

大阪管区気象台の週間天気予報では、降水量は平年並みか少ないとされ、西部近隣海域の栄養塩濃度も低下していることから、海域全体の短期的な栄養塩濃度の推移はやや低下傾向と考えられます。

週間天気予報 気象庁1月23日16時33分発表 ※気象庁ホームページより転載

向こう一週間(1/24~1/30)の近畿地方は、気圧の谷や寒気の影響で雲が広がりやすく、北部では雪や雨の降る日が多い見込みです。中部や南部でも、期間の前半に雪の降る所があるでしょう。

最高気温は、期間の前半は平年並か平年より低く、後半は平年並か平年より高い見込みです。最低気温は、平年並か平年より高いでしょう。

降水量は、平年並か平年より少ない見込みです。

その他の情報

- 岡山県の調査(1/17)では、牛窓沿岸のDIN濃度(表層)は $1.9\sim 2.0\mu\text{mol/L}$ でした。同海域で大型珪藻のコスキノディスクスは $10\sim 20\text{cells/L}$ 確認され、ユーカンピアは確認されませんでした。
- 香川県の調査については、以下のURLから参照してください。

<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/jyouhou.htm>

※栄養塩の単位： $\mu\text{mol/L} = \mu\text{g}\cdot\text{at/L} = \mu\text{M}$

【今後の予定】

- 平成31年4月上旬まで毎月3回程度(上・中・下旬)の発行を予定しています。
 - 次回は平成31年2月1日頃に発行する予定です。
- *この情報は、ホームページでも見ていただけます。以下のURLにパソコン等からアクセスして下さい。
<http://www.hyogo-suigi.jp/>